

ココロ ねっと Vol.4

【2015年9月度定例会】8/31~9/29



発行元・編集／山本辰哉 連絡先／090-7549-7659 E-mail／mttatsu1@gmail.com URL／<http://www.tatsuya-yamamoto.com/>

Cocoro net

「天高く馬肥ゆる秋」 皆さんこんにちは、爽やかな秋を迎え、とても過ごし易い気候になりましたね。光陰矢の如しとは申しますが、本当に早いもので昨年11月に議席を頂いて以来、今回が4度目の定例会となりました。今後も行政との良きパイプ役として精一杯頑張っ



質問内容と答弁

Q: 山本 A: 行政

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の指定について（河川課）

Q 土砂災害防止対策の推進に関する法律が改正されて本年1月18日から施行されている。それから約8ヶ月が経過した現在、本市におけるレッドゾーンの指定状況と、今後の予定について伺う。

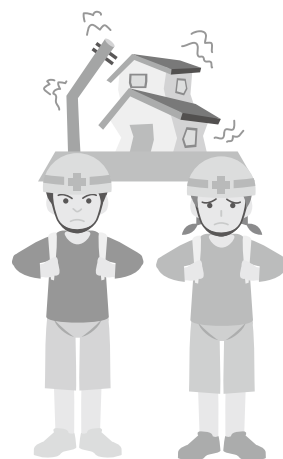
A 本年2月に本郷地域と錦地域において指定が完了しており、9月中に玖珂地域・美川地域・美和地域において指定が行われる予定となっている。

Q 一般的に基礎調査から区域指定までに、どれほどの期間を要するのか？

A 約1年半の期間を要して指定される。

Q 皆様がもっとも懸念されている、レッドゾーン指定後の支援措置等について伺う。

A 建築物の除去費については一戸当たり最大80万円。建築、又は購入費については融資を受けた場合に利子部分の内、建物319万円、土地96万円を限度とする補助制度を準備中。区域周知については岩国市土砂災害ハザードマップを更新し、該当全戸に配布する。更にパンフレットを支所等に配備するなど住民の皆様が理解し易い方法について検討、調整に努めていく。



防災行政無線屋外拡声子局（防災スピーカ）について（危機管理課）

Q 前回6月定例会において、天候や風向きにより屋外拡声子局の聞こえ方は大きく変わってくる為、可能な限り色々な条件でテストして欲しい事をお願いした。それから約3か月が経過した今、その中にはつい先日の大雨と強風を伴った台風15号もあった。そう言った中、データはある程度揃ったものと認識している。そこで、これまでのテスト条件と分析結果、そして皆様から頂いた改善点も含め、総合的な考察を伺う。

A 本年4月に防災行政無線屋外拡声子局の全市的な運用を開始したところであるが、先ずサイレン吹鳴訓練の際は、男性職員の肉声により放送を行ったが、市民の皆様から、音声聞き取りにくい等のご意見をいただき、その後の緊急通信や普通通信については、機械音声により放送を行った。その間、機械音声のスピードを遅くするなど調整を試みたが、機械音声特有の口調が非常に聞き取りにくいとのご意見が多数寄せられた。そこで、女性職員の肉声により放送を行ったところ、「今までより、よく聞こえた。放送内容も聞き取れた。」等のご意見をいただいたところである。

屋外拡声子局からの放送については、風向きや周囲の騒音等の諸条件によって、聞こえ方が大きく変わってくるので、一概に申し上げることは出来ないが、機械音声より職員の肉声による放送の方が聞き取り易いということは確認出来たので、今後も機械音声ではなく、女性職員の肉声により放送を実施してまいりたいと考えている。

Q 音の伝達に最も効いてくるのが、その周波数帯だと思うが、今回は男性より更に聞き取りやすい、女性の声の周波数帯がいい方向に繋がったのだと思われる。ただ、毎回同様の放送内容であれば、録音した音声を使用すれば良い訳だが、放送の度に職員を呼び出すと言うのも大変であると察する。これらの改善策について伺う。

A 毎回同一放送についてはあらかじめ、録音して放送できるが、災害の際には、職員がその都度、その時々

の情報を生で放送することになる。
8月から、予見できる台風等の災害の際には、近くの職員を緊急初動班に配置し、速やかに登庁させ、放送できる体制をとっている。

しかし、緊急で時間的余裕の無い場合は、危機管理課男性職員が放送することとしている。

今後、職員の放送技術の向上にも努めてまいりたいと考えている。

Q 6月定例会に於いても提言したが、現在、屋外拡声子局から発信される、時報用チャイム音に関してはこれではいけないと言った縛りは無いと認識している。生活と音楽というのは、非常に密接した関係であるとともに、生活のリズムを作り出す重要なものでもある。特に、正午のチャイム音や夕方に流れるチャイム音など、時の区切りを示唆するものに関しては、常に一定であったほうが生活のリズムは乱れないと考えているが、その他の時報音に関しては、大きな縛りを設けなくても良いのではないかと認識している。そこで現在のチャイム音から、岩国市出身のアーティストの曲に替えてみてはどうだろうか？日本全国、多くの鉄道駅等で、ご当地メロディーが使用されているように、音楽と活性化には、決して見逃せない相関があるものと考えている。

前回の質問では、岩国市の歌、いわゆる市歌が出来たならば、十分にそう言った事も考えられるとの答弁であった。確かに市歌を流して、一体感を持つと言うことは非常に良い意見であると思う。ただ、更にもう一歩踏み込んで、「えっ？あのメロディーは何の曲？」「岩国市出身のシンガーソングライターの曲らしいよ、CD買って聞いてみようか？」となれば、市とアーティストのコラボレーションで相乗効果を生み出し、地域経済の活性化に少しでも繋がっていくのではないかと常に思っている。再度執行部の見解を伺う。

A 防災行政無線の場合は、機器の点検を兼ねた放送であり、また地域の方々のご理解も必要となることから、防災行政無線の活用のあり方について、今後の検討課題とさせていただきたいと考えている。（秘書広報課）

公平な行政サービスを求める声について（商工振興課）

Q 先日、地方創生総合戦略の第一弾として、プレミアム率20%の商品券が発行されたが、さすがに20%も得をするとすれば、多くの皆さんが購入されることは十分に予想された。ただ本市では、一世帯5セットまでと言うルールをチェックするシステムは無く、任意に購入しようと思えば幾らでも手に入れることが可能な状況であった。やはりそれなりの縛りを設けるのであれば、それに対応した、発行方法と言ったものが必要不可欠ではないかと考える。確かに、対策を講ずれば、それに付随してコストが掛かることは否めないが、総合的に考えれば「公平性を最優先する」と言うことは、先ず行政として優先すべき事ではなかったのか？

この件について、執行部の見解を伺う。

A 商品券の販売に関しましては、市民の方から「待ち時間が長い」「買えなかった」などのご意見等も直接いただいているので、今後同様の事業を実施する場合には、この度の反省点も含めて検討したいと考えている。

行政への提言：答弁中に「売れ残った商品券につきましても…」とあったが、そもそも購入側からすると「売れ残った」という認識は無く、「買えなかった」と考える方が適切である。この認識の違いは、先ずアナウンス方法の脆弱さが原因であると推察する。また販売方法については、先ずは障害者手帳をお持ちの方やご高齢の方から優先的に販売できるシステムを考え、最後に完売策を持ってくることを強く提言する。

徒然記

☆今日の一句☆ 感謝して 一日一善 飯三膳♪(@_@)

実りの秋を迎え、心からその恵に感謝しております。少しでもその恩恵に応えていきたいと思っている、スーパームーンの夜です…。

